

東日本大震災 支援ニュース

支援者のみなさん・送り出したみなさん お疲れ様です。

みんなの経験と勇気を 長期に続く今後の支援へ活かします。

岩須事務局長からのメール 4/6 (4/3日から松島海岸診療所の対策本部で奮闘し 10日帰任)

<被災者の声>

- * 「(東松島市) かかりつけの開業医が被災し亡くなった。これからの病気のことが不安」「それにしても今日は来てもらってうれしかった。3週間ぶりに初めて人と会話して、笑うことができました」
- * 「奥松島地域はまだライフラインが復旧していない。家のかたづけを始めたところだ。食事は避難所に弁当をとりに行っている。避難所ではかぜがはやりはじめている」* 「避難所に(医師会の?) 医師達が来てくれているが、4日に1回だけなので不安」* 「水道が復旧せず、水くみが大変だった。身体が悪いので長い坂道を何度も重い水を持って運ぶことが大変」「(あるいは) 誰かに頼まないと、自分では水を運べない」
- * 「つばさ薬局から家へ薬を届けてもらった。本当に助かった」「歯科往診で糸をぬいてもらった。ありがたかった」「他県の看護師さんが来て血压をはかってくれ、大丈夫ですよと笑顔で言ってもらって、安心できた」「受診したいが足がない。患者送迎してもらえないか(→ その後診療所で患者送迎を工夫中)」* 「(松島町内の旅館、ホテルの営業再開のメド立たず) 旅館のパートをしていたが、自宅待機を命じられた。これからの仕事が不安」「(漁師) 舟、網、棚、全部流された。かきの養殖も壊滅。もう仕事できない」

<支援者の声>

- * 「支援活動に参加して、民医連という組織の、全国につながる強さと、地域に根づいている強さをつくづく感じた。長期支援になると思うが、全国と地域の力をあわせる活動の一部分に居たことはとても重要な経験だ。支援のリレーがこれからもつながっていけばいいと思う」(山梨・事務)
- * 「自分たちが被災者なのに、家にも帰らず、休み無しで、しかもすてきな笑顔でがんばる職員たちの姿に、これからの自分のあり方を考えさせられた」(長野・看護師)
- * 「お互い初めて会った支援者たちが、何の不自然さもなくチームになって、訪問し、見事に会議室や宿泊部屋の片づけ、そうじをし、交流会で仲良くなる。すばらしかった」(長野・事務)

松島への持ち物(自分用、一部被災者さんへ)

- ・ 軍手・ゴム手袋・マスク・シップ
- ・ 自分の食料 煮炊き可能(鍋・釜・小さい冷蔵庫あり) 自分用野菜果物あれば
- ・ 水~ペットボトル何本か。(最近一時断水) アパートは飲用可。診療所は飲用不可)
- ・ 自分のシーツ・枕カバー、念のため長靴
- ・ 懐中電灯・ラジオ(今週末県連から持参)

地域住民訪問は8日までに842軒。

**おもに東松島市の地域訪問
ケアの援助、訪問看護・
介護の支援
職員宅のヘドロ片づけ援助**

長野県民医連からこれまでに 1,245万5,153円を送金。